

科目名	発達障害教育特論	担当教員	仁平 義明
科目属性	専門科目 C	単位数	2 単位 (面接 0.5 単位)
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>【授業の概要】</p> <p>授業の到達目標に記載されたテーマにそって、各回の授業内容を確実に学習していく。具体的には次の(1)～(5)を行っていく。</p> <p>(1) 授業計画にそってテキストの各章・節の内容を熟読し、理解する。</p> <p>(2) 必要に応じて参考資料を自分でも検索しダウンロードして読み、知識を広げる。</p> <p>(3) 求められた課題をレポートにまとめ、教員からのフィードバックによって、理解を深める。</p> <p>(4) スクーリングでは、最新の状況について根拠となる資料を知るとともに、具体的な研究法についても学習する。</p> <p>(5) 科目修得試験では、教科書、レポート、スクーリングでの学習を総合した知識を問う問題に答える。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>この授業は、「障害のある幼児児童生徒と障害のない幼児児童生徒の交流」が目指している、子どもの障害理解教育、障害のある子への態度や行動を変容させる方策を具体的にどう構成するか、必要な知識とスキルを獲得することをゴールとしている。それだけでなく、最終的には「人間の尊厳」の教育についても原理と方策を考えられるようになることを目指している。</p> <p>授業の下位の目的は、次のようなものから成り立っている。これらは、テキストのほかに参考文献や自分で検索した文献を読み込みことではじめて達成できる。</p> <p>(1) 「社会的インクルージョン」「合理的配慮」「インクルーシブ教育」「特別支援教育」「交流と共同学習」などの考え方の中で、「障害」「障害のある子」は他の概念との関係でどのように扱われているかを理解する。</p> <p>(2) <発達障害の理解> 障害理解教育を行うために、教育者自身が発達障害の特徴と対応についてある程度深い理解ができる。</p> <p>(3) <障害説明の目的の理解> 障害について説明することの目的はどこにあるかを理解している。</p> <p>(4) <障害説明に含める要素の理解> 障害の説明に、どのような要素を含めたらよいか分かる。</p> <p>(5) <障害説明と他の教育の効果の理解> 障害説明の効果のアセスメントができるようになる。たんなる知識の獲得と障害のある子に対する態度、感情、行動の変容という効果をもたらす条件のちがいについて理解する。</p> <p>(6) <障害説明のリスクの理解> 障害説明にともなうさまざまなリスクを理解している。</p> <p>(7) <人間の尊厳に関する教育の理解> 障害や障害のある子との交流教育を通じて、人間の尊厳に関する教育について、具体的な方策が考えられるようになる。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第1回：「社会的インクルージョン」「合理的配慮」「インクルーシブ教育」「特別支援教育」「交流と共同学習」などの考え方の中で、障害、障害のある子ども、教育の本質がどのように考えられているかを学習する。とくに、「障害」は考えるべき多数の問題の一つであることを知る。</p> <p>第2回：日本において、「発達障害」という概念の定義がどう変化してきたか、国際的に標準的な考え方との異同を学習する。</p> <p>第3回：発達障害のうち、とくに自閉スペクトラム症について深く学習する。</p> <p>第4回：子どもに障害について説明をする目的を学習する。</p> <p>第5回：障害説明に含める12の基本要素のうち「① 障害名・“障害”という表現」「② 障害の原因」を説明に含める場合に考慮すべき問題を理解し、説明に含めることができるようになる。</p> <p>第6回：障害説明に含める12の基本要素のうち「③ その子の抱えている困難(症状)」「④ 障害のある子自身の気持ち・親の気持ち」を説明に含める場合に考慮すべき問題を理解し、説明に含めることができるようになる。</p> <p>第7回：障害説明に含める12の基本要素のうち「⑤ その子が特別な存在ではないこと」「⑥ 周囲に起こりがちなマイナスの反応」を説明に含める場合に考慮すべき問題を理解し、説明に含めることができるようになる。</p> <p>第8回：障害説明に含める12の基本要素のうち「⑦ その子にどうふるまったらよいか」「⑧ 障害のある子のポジティブな側面」を説明に含める場合に考慮すべき問題を理解し、説明に含めることがで</p>			

きるようになる。

第9回：障害説明に含める12の基本要素のうち「⑨ 障害のある子の将来の目標」「⑩ 周囲が協力・サポートできること」を説明に含める場合に考慮すべき問題を理解し、説明に含めることができるようになる。

第10回：障害説明に含める12の基本要素のうち「⑪ その子への教育的処遇・家庭での対応と理由」「⑫ 今後の変化・進歩・改善の見込み」を説明に含める場合に考慮すべき問題を理解し、説明に含めることができるようになる。

第11回：障害説明について「注意点のまとめ」を読み込んで、子どもに障害を説明するときのリスクについて学習する。

第12回：「親による他の親への説明」と「教師による子どもへの説明」の例を作成しながら、説明のスキルを形成する。

第13回：子どもの質問に答えるかたちの説明とあらかじめ説明する場合のちがいを学習する。

第14回：説明の効果のアセスメントを具体的にどうしたらよいかを学習する。

第15回：障害のある子について他の子にどう説明したらよいかを考えることを通じて、「人間の尊厳」について子どもにどのような教育をしたらよいかを学習する。

○科目修得試験

【評価方法】

スクーリング評価（20%）、レポート評価（40%）、科目修得試験（40%）を総合しての評価となる。

【教科書】

○相川恵子・仁平義明（2021）『新訂版・子どもに障害をどう説明するか—社会的インクルージョンのために—』（PDF版）*前テキストの出版社がなくなったため新訂版を作成。Google classroomにアップ。

【参考図書】

*以下のものは、参考書・参考資料の例であって、必ず参照しなければならないわけではない。この他にも、自分で必要な文献は検索して学修すること。

(1) 「発達障害者支援法」「発達障害者支援法施行令」「発達障害者支援法施行規則（厚生労働省令）」「発達障害者支援法の施行について（文部科学省・厚生労働省次官通知）」にある「発達障害」の定義（各省のウェブサイトを検索・ダウンロード可能）。

(2) 吉田友子（2011）『自閉症・アスペルガー症候群「自分のこと」のおしえ方』学研プラス。

(3) 東條吉邦・大六一志・丹野義彦編（2010）『発達障害の臨床心理学』東京大学出版会

(4) 仁平説子（2018）『自閉症とアスペルガー症候群 対応ハンドブック』東北大学出版会

(5) 仁平説子・仁平義明（2006）『アクロニムで覚える自閉症とアスペルガー障害の対応のちがい』ブレーン出版

*（5）は絶版になっているので所蔵している図書館を通じて読むしかないが、障害の特徴別に具体的にどう対応したらよいかの部分はほとんど上記の（4）に転載されている。

(6) 仁平義明（2020）子どもに障害を説明するとき—「苦手-得意」という表現の問題点。『共生科学研究』No.16。（2021年3月刊行）

**なお、大学院生として、「障害」について教科書や紹介本を読むだけだったり、授業や講演によるまた聞き積み重ねをしたりするのではなく、アメリカ精神医学会の「DSM-5」やWHOの「ICD-11」の翻訳本のほか、可能なら原典も読むようにしてほしい。たとえば、DSM-5の日本語訳は、基本的な障害である「自閉スペクトラム症」の診断基準などでも、肝心の部分が日本語とはいいにくい訳になっていることがあるからである。